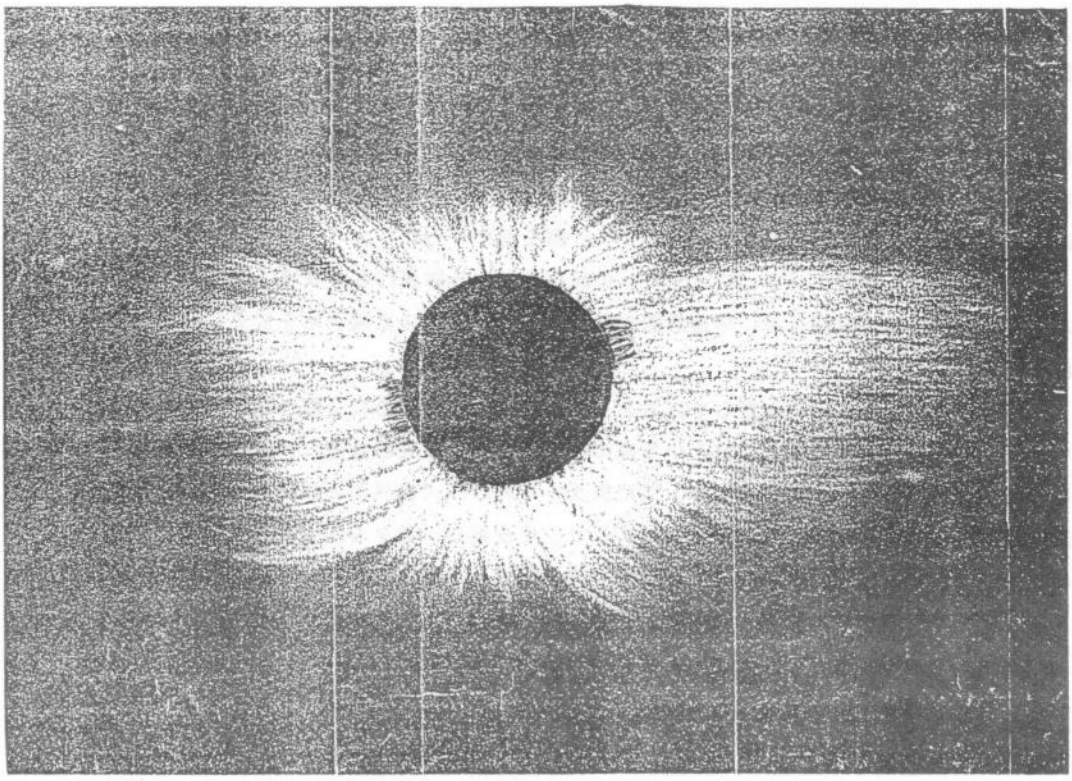
スマトラ・パレンバン日食観測概況

佐藤　精一

今回の皆既日食はスマトラ島パレンバン、フィリピン・ミンダナオ島ダバオか小笠原沖の船上観測の三つが候補に考えられた。私は八丈島金環食観測帰路船酔いで苦しみ、治安の危険が予測されていたフィリピンには躊躇した結果天候の不安はあったが再度インドネシアに天文ガイドの企画した観測旅行に参加した。この様な方が多かった様です。３グループが編成されAコースは約１１０名、Bコースは３０名、Cコースは１２０名総計２６０名と大人数であった。Aグループは３月１６日発ジャカルタ→パレンバン４日間の最短コース、Bグループは３月15日発バリ島→ジャカルタ→パレンバン６日間、Cグループは３月１７日発ジャカルタ→パレンバン→バリ島６日間のコースで各グループには皆既日食初体験から１０回位迄の方の集まりで１人参加、新婚記念、銀婚記念、３ケ月の胎児を含め一家族等大変賑やかな観測団であった。各グループ共前日にはパレンバンに到着し翌日の観測の打合せ会議を持った。ホテルの大ロビーで林家小えん師匠司会による前夜祭が行われた。プロミネンスの映画を交えた皆既日食の解説、エレクトリックヴィオリン演奏、現地人の歌と踊り等食事をしながら夜１０時頃迄楽しんだ。外はドシャ降りの雨の中をバスで観測地のラバンガンゴルフ場へ下見をかねて星野撮影に出掛ける。雨はやまなかったが午前３時頃には天頂には雲間から星がチラつき始めた。５年前のジョクジャカルタの時と同じ様だと期待に胸をふくらませる。午前３時半モーニングコール、４時ホテル出発、ねる時間もない。２０分でゴルフ場到着、暗闇の中ビショ濡れの芝生を懐中電灯をたよりに太陽の昇る方向と樹が邪魔にならない場所を見付けるのに重い器材を持って歩き廻るので大変苦労した。広い芝生に点々と観測者は散らばる。この頃には雨はやんで雲も切れだした。教会よりのコーランの祈りの声が夜明けと共に消えると今度は鳥が囀り始め薄明となり東の空が赤味を帯びる。極軸を約３度弱に傾け南十字星を頼りに南を予測し目盛環を０°に合せて太陽の昇る方向に望遠鏡を向ければ春分に近いためほゞ赤道儀のセッテングは良い筈だ。標準電波の秒時報ピーピーが聞えてくる。地平線にはやゝ厚い雲で太陽が見難い。第Ｉ接触は低空でやゝ雲が薄くなった位で勘認出来なかった。食の進行につれて雲は淡くなり日射は強くなる。時々薄い雲の塊りが通り過ぎる。第Ⅱ接触の頃には空の状態はかなり良くなり僅かに薄い高層雲のみだ、ほゞ成功と胸をはづませ高感度のフィルムに入れ替えてシャッターを切る。快晴のコロナと異なりまぶしくない。肉眼ではむしろこの方がより美しく見える。ループ状のプロミネンスがほゞ上方向に、下方向にも大きな紫桃色のプロミネンスが、左下方向にも小さいのが見えた。コロナの流線は太陽の径の倍位の延びに見られた。美しいダイヤモンドリングと共に壮大な美影はボルネオの方へ去った。シャドウバンドは見られなかった。コロナの色はプロミネンスの色が雲によってかやゝパールピンク様に感じられた。イスラムでは四人の妻が持てるとかで、私も①ニューカークフィルターによるコロナの流線撮影、②普通撮影によ

るコロナの形状、③8 m/m 、④高速連続撮影による第Ⅰ及び第Ⅳ接触の時刻測定の4つの妻を持つ予定であったが雲に邪魔され私の愛が平等に行かずアラーの神のお叱りを受けて④番目の妻とは離婚せざるを得なかった。コーランの国インドネシアの一端を知る事が出来たのも日食観測旅行のお蔭だと思っている。



スケッチ／ 佐 藤 精 一